

学校だより



埼玉大学教育学部附属特別支援学校
令和元年度 学校通信 No. 4
令和元年 9 月 2 日



2 学期を迎えて

神田 佳明

本日から 2 学期が始まりました。元気に登校する姿をみて、とてもうれしく思います。

今年の夏も非常に暑く、クーラーのお世話になる日も例年以上だったかと思います。みなさまは、この夏をどのように過ごされたでしょうか？ 私はこの夏、まとまって研修に出る機会をいただき、いろいろと視野が広がっていく経験をしてまいりました。

この夏の研修の資料に、清川メッキ工業株式会社 専務取締役 清川卓二氏の書いた文章があり、とても印象に残ったので紹介させていただきます。直接お会いして伺ったわけではありませんが、「新時代のキャリア教育」というコラムの中で、日本の子どもたち自らが志を持って職業観を高めていくキーワードの一つとして、「利己と利他」という言葉を用いて説明しています。利己というのは、「自分の利益だけを考え、他人のことは顧みないこと。」(デジタル大辞泉)であり、利他はその対となる言葉です。

清川氏は次のように述べています。「利他を学ばせるためには、利己から始めなければなりません。しかし、利己だけ求めてしまうと、自己欲求だけが高まり、自己肯定感が生まれなくなってしまいます。利己が高まった時に、タイミングよく、利己の反動を使い利他へ転じさせるきっかけを作ってあげることが大切です。」

利己：警察官になりたい → 利他：家族が安心して暮らせる地域にしたい。

利己：お金持ちになりたい → 利他：家族や両親に良い生活をさせたい。

利己：オリンピックに出たい → 利他：日本中の人に喜んでもらいたい。

特にこの「利他」という考え方は、本校の子どもたちにとっても、大切なキーワードだと思います。また、子どもたちに限らず、私たち大人こそ、今一度確認したいキーワードかもしれない。

さて、右の字(絵?)は、ある漢字を示していますが、なんという漢字かお分かりになりますでしょうか？

答えは「徳」です。道徳、人徳などがお馴染みですが、この徳という字が作られた時の字体となります。字の成り立ちについては、いろいろな解釈がなされているようですが、私が一番気に入っているのは、以下のものです。

「この漢字の本来の意味は、真っ直ぐ一生懸命に行動する人。目と心が同じ目標に向かって、素直に行動できる人を示し、人間の道徳的、倫理的な理想の姿を表す。」

説明の中で「目と心が同じ目標に向かって」というところがとても良いと思います。同じ旁つくりを持つ漢字に「聴」がありますが、これも同じ解釈に立つと、目も心も同じ目標(相手)に向かって耳を傾けるイメージがわいてきます。話を「聴く」には、耳だけでなく、目も、心も相手に向ける必要があるのだと思います。

今年度の 2 学期は、本校がかかわる全国大会が複数開催され、来校者も多くなります。いろいろとご協力をいただくこともあろうかと思いますが、相手のために目と心に向けていただくことも、併せてどうぞよろしくお願いいたします。